

地域の活性化は、中小企業の元気から

千葉県の企業の99%が中小企業です。中小企業の元気が地域の活性化を創ります。まずは、借りやすい制度融資の実現を目指します。特に起業家を対象にした創業資金や経営革新のための資金などは、融資利率を下げて、借りやすくしなければなりません。NPOを対象にする制度融資も必要であります。

そして、新産業の創出やベンチャー企業の育成のためのインキュベーション施設の充実にも取り組みます。

また、農林水産業の担い手の育成、農地の有効利用の促進、農林水産業の六次産業化への取り組みなど一次産業の支援を行います。

地域の中小企業が元気になれば、雇用を創出します。千葉県の企業が千葉県の全ての学生の就業先となるように全力で取り組みます。

議会での取り組み

南船橋駅の企業庁未利用地は船橋市と自治会など地元6団体と確約書の調整を進め平成25年3月末までに道路やインフラの整備をしてデベロッパーに売却しなければなりません。船橋市は、この土地の一角に特別養護老人ホームの用地を希望しています。早く調整が終了し、新たな船橋の顔となるような南船橋駅前を造ります。

安心・充実 医療先進県へ！

千葉県の人口10万人当たりの医師数は161名で、これは全国45位（全国平均213名）の最低レベルです。

しかし、すぐに医師を増やすことは出来ません。将来の医師確保のためには医学部定員を増やしたり、退職した女性医師、看護師が再勤務しやすくする環境整備が必要と考えます。

そして救急時のトリアージ（病状による優先順位）の徹底などによる限られた医療資源の効率的な運用など、千葉県の医療復活の実現に全力を傾けます。そのためには、「かかりつけ医」などの地域医療体制を強化します。また、県内医学部の定員増や、医科大学、メディカルスクールの設置を推進します。そして、老朽化の著しい県立がんセンターを建て替え、更なる先端医療への対応を進めます。また、子ども医療費助成事業も対象年齢の拡大に取り組みます。

議会での取り組み

昨年12月から子ども医療費の無料化が就学前から小学校3年生までと、助成年齢が拡大しました。しかし、命につながる子どもの健康が都道府県や市町村によって大きな格差があります。我が国は世界に誇る国民皆保険制度があります。子ども医療費助成事業も国が主導的に全国一律で制度化出来るように取り組みます。

三番瀬を次世代に！！

三番瀬は船橋沖に広がる干潟・浅瀬です。そこでは以前と比べ漁獲量は減りましたが、アサリ・アオヤギ・ホンビノス貝、海苔などが獲れています。江戸前の海苔は贈答や皆さんの食卓を賑わせていると思います。

三番瀬を歩くと良くわかりますが、スズキやボラ、カレイの稚魚たちが遊んでいます。この稚魚たちが大きく育ち、沖へ出て、東京湾漁業を支えています。千葉県は以前「補足調査」で三番瀬内の生物の種類を調べました。結果は魚類が101種、鳥類が89種、

プランクトンやゴカイ類まで含めれば647種の生物が生息しているという驚くべき調査結果を公表しました。これだけ豊かな干潟・浅瀬を、私は今後も、千葉県民の財産として守りたいのです。そのためには、ラムサール条約への早期登録と、三番瀬保全条例の制定をします。

議会での取り組み

葛南港湾事務所南側の約6900㎡の千葉県所有の埠頭用地があります。この土地の近隣は東関東自動車道の谷津船橋インターが23年度に共用され、ららぽーとには年間2,400万人の買い物客が訪れます。何よりも海を身近に感じ、富士山も見えます。船橋漁港で獲れた江戸前の魚、船橋産の新鮮野菜などが売られ、船橋の地域活性化に必ず寄与するものと考えます。船橋初の道の駅実現に向けて頑張ります！

